



— 巻 頭 言 —

良いシステム作りに欠かせないチームワーク

生涯教育委員会担当理事 古 嶋 昭 博
(熊本大学生命資源研究・支援センター)

今、地球規模でCO₂をはじめとした温室効果ガスによる温暖化が進み、自然破壊や社会への影響が深刻化しています。また、わが国でも、政治、経済、教育、年金、医療など毎日いろいろな社会問題が起こっています。このような問題に対する物事の因果関係を考えるとき、情報システム論における入力と出力の関係にたとえることができると思います。つまり、対象となる何らかの原因（入力）があるとき、それがシステム系で処理されて結果（出力）が生じるというものです。もちろん、同じシステム内容でも入力が変われば出力も異なりますし、入力は同じでもシステムが異なれば出力も変化します。地表を暖めるという太古の昔から続いてきた自然のシステムに異変がおき、また、国民生活を豊かにすべき日本社会のシステムが上手く機能しなくなったため住み難くなっています。ここで述べていますシステムとは、「相互に密接に影響を及ぼすパーツから構成された、まとまった仕組み全体」をいい、広義では体系、組織、方法なども意味します。

それでは正当な成果を生み出すために、システムを健全に機能させる大事なものは何でしょうか。たとえば組織の中では、私は物事を処理する個人あるいは集団同士のチームワークが重要な要素の一つではないかと考えます。毎年、年明け1月2日と3日に行われます箱根駅伝をテレビで見ながら正月をくつろいでいます。今年の大会では、強豪三大学の選手がレース中に突然の身体的不調により途中棄権しなければならないという、前例のないアクシデントがあり、伝統あるタスキを全員につなぐことができずに、来年のシード権を失うことになりました。また、私事で恐縮ですが、私はテニスの愛好家で、正月明け早々に地元で開催されたテニス大会のダブルス戦に参加しました。順当に勝ち上がっていったのですが準決勝で予想もしないアクシデントが起こりました。われわれは相手を大差でリードしていましたが、私の足に突然の痙攣が襲いゲームをひっくり返されてその試合を落としてしまいました。ペアを組んでいただいた方には大変ご迷惑をおかけすることになりました。

このような経験から駅伝や複数のメンバーで闘う競技における勝つためのシステム作りには、チームワークやコンディションの良さが結局、良い結果を生み出すことになることが改めてわかりました。入力に突然の変化が起こってもそれを柔軟に対処できるシステムであれば、安定した出力を生み出せます。従って、良いシステムはさらに長所を活かし、悪いシステムは積極的に改善する努力が必要です。

日本核医学技術学会会員の皆様の大半は核医学診療に専ら携わる診療放射線技師であり、職場では、医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師などの医療従事者とともに一専門職能集団としてチームワークをとりながら、安全で良質な医療サービスを提供するシステムを作り上げておられることと思います。もし、そのシステムが乱れるようなことがあっても、チーム医療を構成するお互い同士が理解し合い強く連携することにより乱れは収まり、元の万全な医療体制（出力）を維持することができます。

私は平成18年度より日本核医学技術学会の理事に就任し、生涯教育を担当させてもらっています。私は診療放射線技師ではなく、理事就任前までは研究者会員として研究発表や論文発表などの研究面のみに関わり、会誌でしかその事業については知りませんでした。しかし、理事会へ出席してみても最初は知らない領域で大変戸惑いましたが、回を重ねていくうちに感じたことは、学会長をはじめ各理事と監事の方々が日本核医学技術学会の発展のために労をいとわず精力的に活動されている姿勢と、学会事業を円滑に遂行するための良いシステムが出来上がっていることです。このシステムを安定維持させるために学会長をチームリーダーとした理事同士の良好なチームワークや連携がとれていると感心しています。

今年10月、以前から検討されてきました日本核医学会との第1回目の合同学術大会開催事業が千葉市幕張メッセで行われます。また、今年5月には「核医学技術総論」の出版が予定され、本学会の法人化の実現も大詰めに近づいています。

今後、日本核医学技術学会の事業に難題が降りかかっても、学会役員の方々と会員の皆様のチームワークにより難局を乗り越えながら、さらに発展させるためのすばらしいシステム作りを目指していきましょう。